

2019カンボジアスタディツアー

九州大学、国立音楽大学、広島大学



【カンボジア教育支援の概要と経緯】

- ・ 2015年、津田正之先生（国立音楽大学教授。前文部科学省教育課程調査官・音楽・H20～H28年度）より「ボディパーカッション教育」をカンボジア教育カリキュラムへ導入のための実践研究指導を依頼される。
- ・ カンボジアは、音楽等の芸術教育分野においても「楽譜が読めない、楽器がない、外国曲を知らない」外国の音楽教育を導入することは難しく、「音楽」という教科がなく教師も音楽教育を受けたことがない。教師の音楽的な指導力にも課題がある
- ・ カンボジアの学校では、教材関係の道具や楽器も満足になく、日本が支援しているハード面での楽器贈呈（ピアノカ、ハーモニカ、リコーダー等）が定着できない現状があった。



JHP「学校を作る会」プノンペン事務局の
スタディツアー事前研修会（プノンペン）



津田正之先生（国立音楽大学教授）山田俊之と
カンボジア小学校の子ども達

【カンボジア教育支援交流スタディツアーの経過と成果】

- 上記の経緯を受けて、2019年3月に津田正之先生（国立音楽大学教授）と山田俊之（九州大谷短期大学）が引率し、九州大学、国立音楽大学、広島大学院生（カンボジアの芸術教育研究指導）18名でスタディツアーを行う。
- カンボジアの教育現状と今後の課題について学習（JHP「学校を作る会」カンボジア事務局長矢加部氏より講話と質疑応答、ディスカッション）
- カンボジア養護施設（小中学生）での音楽交流とボディパーカッション指導。



向かって左より津田正之先生、プノンペン王立芸術大学副学長、事務局長、山田俊之



カンボジアの小学校（養護施設）でのスタディツアー学生による音楽指導の様子

- プノンペン王立芸術大学と九州大学、国立音楽大学、広島大学生徒のボディパーカッション活動交流と、日本とカンボジアの相互演奏披露。
- カンボジアを代表する演奏家であり、プノンペン王立芸術大学講師陣によるカンボジア伝統音楽を学び、質疑応答を行う。
- プノンペン王立芸術大学附属中学校で音楽交流とボディパーカッション教育指導。
- カンボジア公立小学校での音楽交流とボディパーカッション教育指導。



プノンペン王立芸術大学伝統芸術専攻学生、
教師とスタディツアー参加の学生、教師



カンボジアのプノンペン王立芸術大学中学部でボディパーカッション実技指導の様子（上、下写真）



プノンペン王立芸術大学講師の方々とスタディ
ツアー参加の学生



カンボジアの小学校の子ども達とスタディ
ツアー参加の学生達



カンボジア教育省カリキュラム作成主任チュテマ氏





スタディツアー参加学生（九州大、広島大、国立音大）とプノンペン王立芸術大学指導者